

復習用スライド

前回の復習

05月09日の講義

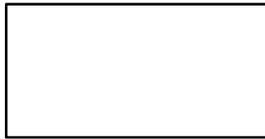
前回の課題

- ✓ 労働による効率性追求の延長線上で、
経済的・必然的な社会形成を考察した。
- ✓ このような人間社会と動物集団との
違いも明らかになった。

協力一般

- 人間は物質代謝の効率的運営において、個人の能力の限界を超えて社会的に運営するようになると想定することができる。
- 社会的生産の最も単純な形態、かつ最も一般的な形態は、労働における多数者の相互的な協力であり、これを

社会的な

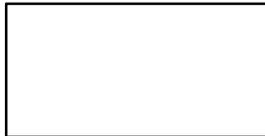


と名付ける。

役割分担

- 欲望が多様化すると、欲望の多様化に対応する具体的労働の多様化を、多数者の役割分担によって解決するようになる。このような労働の社会的な役割分担を

社会的な



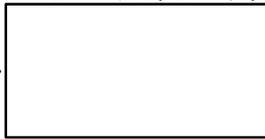
と呼ぶ。

- 社会的な××において実現されているのは、個人的労働という生命活動の社会的変換である。

人間社会

- 生産力の発展は、要するに、労働の媒介的性格を実現していくということだった。
- 自分の身体や労働手段を媒介にするのとは違って、いまや社会的労働では、媒介は他者の労働である。どちらも媒介（手段）かつ自覚的な主体（目的）。
- ここで、いまや労働の媒介的性格の原理は

自覚的な



性という新しい形で

実現されている。これこそが動物集団とは異なる、人間特有の社会である。

労働による社会形成の原理

- このような人間特有の社会の原理は、労働の原理から発生する以上：
 1. 個々の主体に即しては
 かつ平等。
 2. 全体に即してはグローバル。

今回の予定

- ◎ 『3. 社会と労働』の「生産力の上昇の主要要素」（第6ページ）から再開。
- ◎ 『4. 市場社会のイメージ』および『5. 資本主義社会のイメージ』をできるところまでやる。

解答

1. 協業
2. 分業
3. 相互
4. 自由